

当園では、国が定める「保育所保育指針」により保育士が自らの保育実践を評価し、これを踏まえて保育所として、日々の保育をさらなる充実と事業全般の質の向上を図ることを目的とした自己評価を実施しています。

実施に当たっては、評価内容を次の3段階に分けて評価し、今後の課題及び目標づくりの参考としています。

R6年度 菊水元町保育園 自己評価

評価基準…… A:できている B:ほぼできている C:改善を要する

項目	内容	前期評価(9月)		後期評価(3月)			
		職員	園	職員			園
				A	B	C	
運営管理	1 園のモットーや保育目標を保護者や職員に周知している。	A	A	86%	15%	0	A
	2 定期的な職員会議などを通して、職員の資質向上、情報共有を行い共通認識を持って保育する。	A	A	81%	19%	0	A
	3 園長や主任・職員の役割分担と責任が明確化され、園児や保護者へ迅速な対応ができる体制がある。		A				A
	4 園のしおり、重要事項など基本情報が見えるところに置いてある。	A	A	90%	10%	0	A
守秘義務	5 園児の個人記録や個人情報は、個人情報保護法に基づいて管理、保管している。		A				A
	6 園内で知りえた事柄について守秘義務を徹底している。	A	A	95%	5%	0	A
安全・危機管理	7 火災、地震などの災害発生に備え、日頃から準備をし訓練を行っている。	A	A	95%	5%	0	A
	8 不審者対策についてマニュアルを見て理解し、いつ起きても慌てず対応できるよう日頃から訓練をしている。	B	B	48%	42%	10%	B
	9 保育中の事故防止の為に、保育士2人以上の態勢を整え、保育環境の配慮の工夫を行っている。	A	A	95%	5%	0	A
	10 こどもが自ら、危険を意識できるように、安全について指導している。	A	A	90%	10%	0	A
保育環境	11 遊具、玩具、砂場などの点検や消毒を定期的に行っている。	A	A	57%	38%	5%	A
	12 子どもたちの危険が無いよう、保育室やトイレなどの共有スペースの点検・整理整頓を行っている。	A	A	85%	15%	0	A
	13 保育室の温度や湿度、換気の配慮している。	A	A	95%	5%	0	A
	14 戸外あそびなどを通して、自然とのふれあいを大切に、心が豊かになるよう配慮している。	A	A	76%	24%	0	A
	15 仮眠や午睡時はあおむけに寝かせることを徹底し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に配慮している。	A	A	90%	10%	0	A
保育内容	16 一人ひとりの発達を理解して、保育している。	A	A	76%	24%	0	A
	17 子どもが何を求めているのか考慮したり、言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するように保育している。	A	A	81%	19%	0	A
	18 障がいのある子どもの、特性に配慮した個別の計画を作成し、適切な保育を行っている。	A	A	75%	25%	0	A

評価基準…… A:できている B:ほぼできている C:改善を要する

項目	内容	前期評価(9月)		後期評価(3月)			
		職員	園	職員			園
				A	B	C	
食育	19 食育の計画を作成し、日々の生活の中で子どもが食べ物に関心を持ち、楽しく意欲的に食べることができるように工夫している。	A	A	90%	10%	0	A
	20 子どもが育てたものを食事やおやつに出し、一緒に食べるなど食育に心がけている。	B	A	43%	43%	14%	A
家庭・地域との連携	21 お便り、ホームページ、日常の様子などの動画配信を通じて、保育内容や子どもの様子を伝えている。		A				A
	22 姉妹園や近隣の幼稚園、小中学校と連携し、交流を行っている。	A	A	100%	0	0	A
	23 保護者に送迎時や連絡帳などで、子どもの様子を伝えたり、日常的な情報をやり取りする中で信頼関係を築き、保護者が悩みや不安を話せるよう、心を開いて対応している。	A	A	82%	15%	3%	A
職員同士の連携	24 子どものことやクラスでの出来事等必要なことは、園長、主任に報告・連絡・相談をしている。	A	A	95%	5%	0	A
	25 お互いの立場を思いやり、相手に対する感謝の気持ちを持ってかかわっている。	A	A	95%	5%	0	A
	26 勤務時間中のプライベートや私語は慎み、保育に向き合っている。	A	A	81%	19%	0	A
子どもの人権を守る保育	27 子どもの人権を守る保育を行う上で、不適切なことばや、保育を理解している。(暴行、虐待、悪ふざけなど)	A	A	100%	0	0	A
	28 差別的な関わりではなく、多様性を認め平等な保育を心がけている。	A	A	95%	5%	0	A
資質向上	29 ヒヤリハットを共有し、同じ危険やミス、事故などを起こさないように心がけている。	A	A	90%	10%	0	A
	30 研修などを通して、互いに知識や技術の習得を図っている。	B	A	66%	34%	0	A
	31 自己評価に基づき課題を把握し、保育の向上に努めている、	A	A	90%	10%	0	A

前期 自己評価

ほとんどがA評価だったが、ふだんからしっかりと行ってきたと確認することができた。ただ、不審者対策については、本来なら秋ごろまでに実際に訓練をしたかったができなかったため、今年度中(後期)には行いたいと思っている。一人ひとりの発達を理解した声かけ、援助がなされ不適切な保育にならないようにと、しっかりと自覚をもって日々の保育にあたっていると思う。また、ヒヤリハットなどを共有し、危険やミス、事故の予防にもすぐ気を配っていると思う。

後期に向けても、常に自分を客観的にみられるようにし、それぞれの課題をクリアするように努めていきたいと思う。

後期 自己評価

不審者対策の訓練を出来なかったことが、一番の反省点です。R7年度前期では訓練を行っていききたいと思います。訓練が出来なかった場合でも、職員全体でマニュアル研修をしていききたいと思います。

後期は10月から3月までということで、寒さに向かい子どもたちが育てたものの収穫も終了していたこと、砂遊びも終了していたことから職員の評価が低かったものと思いますが、園としては食育についても消毒についても積極的に行っていることをご理解いただきたいと思います。消毒に関しては、何でもお口に持っていく0～1歳児のクラスでは、使用した玩具は毎日消毒をしています。2歳児以上のクラスでも、必要に応じて消毒をしています。

自己評価を通して、一人ひとりが自分の言動を客観視し、良いところを認め、出来ていなかったところを見つけ反省し、今後の目標を見出しました。そして、職員全員で心をつにし、それぞれが納得いく成果が出るように努力していききたいと思います。